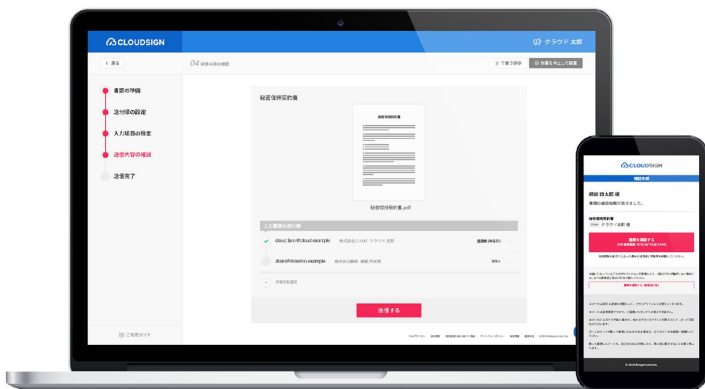


7. 弁護士ドットコム株式会社 クラウドサイン

弁護士ドットコム株式会社 クラウドサイン

企業名	弁護士ドットコム株式会社
機器・サービス名	クラウドサイン
問合せ先	メール: contact/atmark/cloudsign.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	クラウドサインは契約書をアップロードし、相手方が承認するだけで契約を結ぶことが出来るクラウド型の電子契約サービスです。
機器・サービスの 特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 書類内容確認機能: 契約当事者は、契約相手によってクラウドサイン上にアップロードされた契約書PDFの書類確認依頼をメールにて受信後、書類の内容を確認できます。 ● 入力項目入力機能: 書類に入力項目が指定されている場合に、チェックやフリーテキスト入力で入力できます。 ● 合意締結機能: クラウドサイン上で同意ボタンを押すことで、電子署名で電子契約を締結できます。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 これまで単独での紙面での契約締結や押印が困難だった視覚障害者や身体障害者自身が単独で書類内容を確認し、同一の書類に対して署名を行うことができます。 ● スクリーンリーダー対応: ボタンやリンク・入力欄など各項目を認識できます。 ● キーボード操作対応: 腕などの障害や怪我により標準的なマウスを使えない方でも操作できます。 ● 視認性考慮: 色弱者でも文字を認識しやすいユーザーインターフェースです。

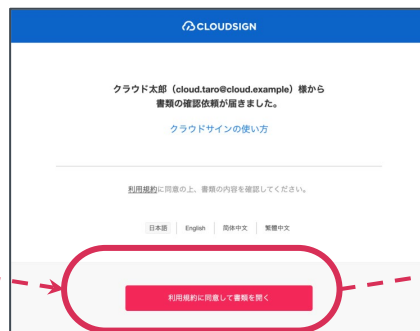


受信者

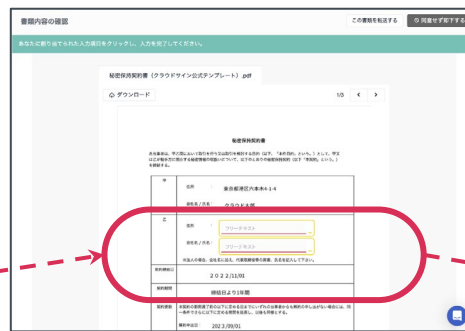
即座に契約書を確認し、速やかな合意締結作業が可能



1. 受信メールからアクセス



2. 書類の確認開始



3. 入力項目を入力



4. 内容を確認して同意

弁護士ドットコム株式会社 クラウドサイン

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 企画・設計開発の段階で、懸念点をいつでも相談できるようアクセシビリティ専門家への窓口を整備し、具体的な実装方法について提言をもらうことができるようにしている。
- 外部から障害当事者を招いてユーザビリティテストを実施し、その結果を踏まえ、社内でもスクリーンリーダーでの動作テストを実施するなど、障害当事者や利用者等の意見を踏まえた改善を行っている。

企業としての 組織的な取組

- 情報アクセシビリティを確保できるようなデザインシステムを採用し、それに基づいた実装コンポーネントを整備している。
- 毎月2回クラウドサインの全プロダクト開発者向けに達成基準の解説および改善事例を解説することで、ウェブアクセシビリティの向上に取り組むよう啓蒙している。
- 全盲の障害当事者であるアクセシビリティスペシャリストを招きユーザーテストを実施し、社内外にオンラインおよびオフラインで動画とテキストで発信し、ウェブアクセシビリティを学べる機会を提供している。
- 情報アクセシビリティの確保を目的としたチェックを行う全社横断の専門家を配置し、各部門と連携しながら、製品やサービスがアクセシビリティ基準を満たしているかを確認し、全社的にアクセシビリティの向上に努めている。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 契約書という心理的にも難しさを感じるであろう書類の場面で、アクセシビリティの確保を目指している。
- ・ 視覚障害、肢体の障害のある利用者が契約書の閲覧、署名が可能となるようなシステムを目指している点が評価できる。これらの契約内容の確認や、署名などが自分でできるようになることはプライバシーやセキュリティ面から当事者のニーズに適っている。
- ・ 契約の場面で家族以外の同伴者の代筆代読支援が受けられにくい視覚障害者にとって、期待できるものと考えられる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ マウス操作に困難のある障害者へのアクセシビリティ配慮を想定したことも評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 全盲のアクセシビリティスペシャリストによるユーザビリティテストを行い、製品開発にそれらのノウハウを活かしている。
- ・ 相談窓口の整備や、外部からの障害者への実証実験等を踏まえた改善を行い開発している。
- ・ アクセシビリティ対応を実装する開発者からの懸念点を相談する仕組みを設けている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ 全社を挙げてアクセシビリティ研修を実施している等、企業姿勢として積極的である。
- ・ 開発だけでなくユーザビリティテストや全社員対象のイベント等の取組によって契約に関するアクセシビリティへの関心を高く喚起させようと取り組んでいる。
- ・ 全社横断で専門家を配置し、各部門と連携しながら開発を進めている。
- ・ アクセシビリティに配慮したデザインシステムを構築し、開発の品質向上や二度手間を防ぐなどの努力をしている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ —

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 現在は、契約のしくみや内容を理解できる障害者をターゲットにしており、契約そのものにアクセスできるようにすることへの問題意識が高まることを期待する。
- ・ 顧客企業が作成する契約文書に潜むアクセシビリティ問題について、プラットフォーム事業者として指導を期待する。
- ・ 契約文書としてアップロードされるPDFのアクセシビリティが十分に確保されていない点が課題であり、サービス提供企業として、アクセシビリティ確保のための機能や、アクセシビリティ向上のためのガイドライン提供や働きかけを期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- ・ サービスを利用できる契約方法や機関を増やすことが求められており、特に金融機関や住宅購入などの分野での活用を期待する。